



2021年3月期
第2四半期決算説明資料

2020年11月6日
ダイキン工業株式会社

I. 全社業績

上期決算概要 P. 3-9

通期業績計画 P. 10-12

II. 部門別概況 P. 13-20

III. 株主還元 P. 21

《補足データ》

I. 全社業績 ■ 全社上期実績



新型コロナウイルスの影響により、世界的に景気は大きく減速。地域・事業・商品ごとに需要の回復状況を見極め、オンラインツールの活用、換気商材の提案営業の強化、固定費削減の徹底など、守りと攻めの両面の施策を推進。市場最寄化生産による安定供給と、顧客密着の営業活動で需要を捉え、現計画を上回る業績を達成。空調事業は、住宅用を中心に空気質・換気への関心の高まりを捉えた商品を拡販。化学事業は、半導体市場の回復遅れや自動車市場の需要減速の影響を受けたが、テレワークの普及に伴うタブレット向けや医療用防護服向けの販売を強化。

(億円)	2019年度 上期実績	2020年度上期		前年度比
		現計画	実績	
売上高	13,542	12,050	12,292	91%
営業利益 (利益率)	1,683 (12.4%)	1,210 (10.0%)	1,316 (10.7%)	78%
経常利益 (利益率)	1,701 (12.6%)	1,210 (10.0%)	1,319 (10.7%)	78%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (利益率)	1,185 (8.8%)	750 (6.2%)	846 (6.9%)	71%

USドル/円

¥109

¥108

¥107

ユーロ/円

¥121

¥120

¥121

中国元/円

¥15.7

¥15.7

¥15.3

○為替影響(対前年度)

売上高 ▲235億円

営業利益 ▲50億円

■ 事業セグメント別上期実績

(億円)		上期実績		
		2019年度	2020年度	前年度比
全社	売上高	13,542	12,292	91%
	営業利益 (利益率)	1,683 (12.4%)	1,316 (10.7%)	78%
空調	売上高	12,344	11,317	92%
	営業利益 (利益率)	1,525 (12.4%)	1,245 (11.0%)	82%
化学	売上高	900	746	83%
	営業利益 (利益率)	129 (14.4%)	59 (8.0%)	46%
その他	売上高	298	229	77%
	営業利益 (利益率)	28 (9.5%)	12 (5.3%)	43%

■ 連結損益計算書

(億円)	2019年度上期	2020年度上期	利益影響額
	104	91	
売上高	13,542	12,292	▲ 1,250
売上原価	8,744 (64.6%)	7,981 (64.9%)	+763
粗利益	4,798 (35.4%)	4,311 (35.1%)	▲ 486
販売費及び一般管理費	3,115 (23.0%)	2,995 (24.4%)	※1 +120
営業利益	1,683 (12.4%)	1,316 (10.7%)	▲ 367
営業外損益	18	2	※2 ▲ 15
経常利益	1,701 (12.6%)	1,319 (10.7%)	▲ 382
特別損益	2	▲ 3	※3 ▲ 5
税金等調整前四半期純利益	1,703 (12.6%)	1,316 (10.7%)	▲ 387
法人税等	480	435	+45
税負担率	28.2%	33.1%	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	38	35	+4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,185 (8.8%)	846 (6.9%)	▲ 339

※1 販管費の主な増減内訳

広告宣伝費	+48
製品発送費	+46

※2 営業外損益の主な増減内訳

受取利息	▲ 9 (+38→+29)
受取配当金	▲ 5 (+30→+25)

※3 特別損益の主な増減内訳

固定資産処分益	▲ 4 (+4→0)
保険差益	▲ 2 (+2→0)

()内は対売上高比率

■ 連結貸借対照表



(億円)	2019/9月末	2020/9月末	増減
手元資金	3,827	7,300	+3,473
売上債権	<u>61日</u> 4,513	<u>64日</u> 4,306	▲207
棚卸資産	<u>58日</u> 4,273	<u>60日</u> 4,021	▲252
固定資産	11,332	11,115	▲216
投資有価証券	1,994	1,770	▲224
その他	1,295	1,409	+114
資産合計	27,235	29,922	+2,687

	2019/9月末	2020/9月末	増減
仕入債務	1,881	1,873	▲8
有利子負債	5,916	7,842	+1,925
(有利子負債比率)	(21.7%)	(26.2%)	
その他	4,642	4,790	+148
負債計	12,440	14,505	+2,065
自己資本計	14,452	15,112	+661
(自己資本比率)	(53.1%)	(50.5%)	
新株予約権	21	21	+1
非支配株主持分	323	283	▲40
純資産計	14,795	15,417	+622
負債・純資産計	27,235	29,922	+2,687

※有利子負債の明細

	2019/9月末	2020/9月末	増減
短期借入金	419	567	+148
CP	480	0	▲480
社債	700	1,400	+700
長期借入金	3,615	5,111	+1,496
リース債務	702	764	+62
合計	5,916	7,842	+1,925

■ 営業利益増減分析 - 上期実績の対前年度比較

(億円)

2,600

2,400

2,200

2,000

1,800

1,600

1,400

1,200

1,000

	2019年度 実績	為替	拡販	売価	コストダウン	原材料	固定費ほか	新型 コロナウイルス	2020年度 実績
計	1,683	▲50	+583	+40	+160	+35	+65	▲1,200	1,316
空調	1,525	▲47	+527	+40	+149	+35	+52	▲1,038	1,245
化学	129	▲3	+54	—	+10	—	+11	▲142	59
その他	28	—	+2	—	+1	—	+2	▲20	12

■地域別売上高の推移 - 空調事業



※冷凍・冷蔵機事業、フィルタ事業含む

※パーセンテージは前年度比

(億円)	2016年度上期		2017年度上期		2018年度上期		2019年度上期		2020年度上期		2020年度計画		2020年度計画 (前回公表)	
	割合	売上高	割合	売上高	割合	売上高	割合	売上高	割合	売上高	割合	売上高	割合	売上高
日本	104%	2,208	105%	2,329	108%	2,507	107%	2,687	93%	2,508	98%	4,850	95%	4,700
ヨーロッパ	98%	1,264	115%	1,456	114%	1,666	113%	1,887	98%	1,857	100%	3,800	97%	3,700
中国	88%	1,668	117%	1,952	107%	2,079	96%	1,994	91%	1,814	101%	3,100	100%	3,050
米州	99%	2,707	112%	3,044	112%	3,414	108%	3,694	93%	3,439	96%	6,750	92%	6,500
アジア	97%	1,173	107%	1,260	111%	1,403	106%	1,487	76%	1,125	83%	2,450	78%	2,300
オセアニア	108%	232	142%	329	113%	373	90%	337	106%	358	94%	690	87%	640
中近東	91%	221	113%	251	95%	239	92%	220	84%	185	92%	440	92%	440
アフリカ	72%	35	101%	36	122%	43	86%	37	84%	32	84%	70	84%	70
計	98%	9,509	112%	10,655	110%	11,724	105%	12,344	92%	11,317	96%	22,150	93%	21,400
海外売上高比	77%		78%		79%		78%		78%		78%		78%	
USD/円	¥105		¥111		¥110		¥109		¥107		¥107		¥108	
ユーロ/円	¥118		¥126		¥130		¥121		¥121		¥121		¥120	
中国元/円	¥15.9		¥16.4		¥16.8		¥15.7		¥15.3		¥15.2		¥15.7	

■地域別売上高の推移 - 化学事業

※パーセンテージは前年度比

(億円)	2016年度上期		2017年度上期		2018年度上期		2019年度上期		2020年度上期		2020年度計画		2020年度計画 (前回公表)	
	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円
日本	102%	194	119%	232	115%	266	98%	262	72%	188	84%	420	84%	420
米州	87%	184	112%	205	114%	234	91%	213	76%	161	84%	370	88%	390
中国	91%	154	119%	183	107%	196	92%	179	109%	196	110%	370	104%	350
アジア	86%	78	135%	105	120%	126	91%	114	88%	100	88%	225	88%	225
ヨーロッパ	91%	112	120%	135	135%	182	68%	123	79%	97	84%	210	84%	210
その他	122%	4	170%	6	135%	9	93%	8	49%	4	39%	5	39%	5
計	92%	725	119%	866	117%	1,012	89%	900	83%	746	89%	1,600	89%	1,600
海外売上高比		73%		73%		74%		71%		75%		74%		73%
USDル/円		¥105		¥111		¥110		¥109		¥107		¥107		¥108
ユーロ/円		¥118		¥126		¥130		¥121		¥121		¥121		¥120
中国元/円		¥15.9		¥16.4		¥16.8		¥15.7		¥15.3		¥15.2		¥15.7

■ 全社通期業績計画



コロナウイルスの急拡大をふまえて構えた「守りと攻めの施策」「体質強化・体質改革」「緊急6プロジェクト」を着実に実行することで、年間計画を上方修正。感染症拡大の第2波の懸念が高まり、業務用空調を中心に需要環境の悪化が見込まれるなか、需要の変化に柔軟に対応できるSCMの構築、販売力・営業力の強化、空気質・換気への関心の高まりを捉えた新商品の投入など、「攻め」と「挑戦」の姿勢であらゆる施策を徹底実行。計画を上回る業績の達成をめざす。

(億円)	2019年度実績			2020年度 (前回公表)	2020年度			
	上期	下期	年間	年間計画	上期実績	下期計画	年間計画	前年度比
売上高	13,542	11,961	25,503	24,000	12,292	11,958	24,250	95%
営業利益 (利益率)	1,683 (12.4%)	972 (8.1%)	2,655 (10.4%)	1,980 (8.3%)	1,316 (10.7%)	784 (6.6%)	2,100 (8.7%)	79%
経常利益 (利益率)	1,701 (12.6%)	990 (8.3%)	2,690 (10.5%)	1,980 (8.3%)	1,319 (10.7%)	781 (6.5%)	2,100 (8.7%)	78%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (利益率)	1,185 (8.8%)	522 (4.4%)	1,707 (6.7%)	1,300 (5.4%)	846 (6.9%)	554 (4.6%)	1,400 (5.8%)	82%
USD/円	¥109	¥108	¥109	¥108	¥107	¥108	¥107	
ユーロ/円	¥121	¥121	¥121	¥120	¥121	¥120	¥121	
中国元/円	¥15.7	¥15.5	¥15.6	¥15.7	¥15.3	¥15.2	¥15.2	

○為替影響(対前年度)

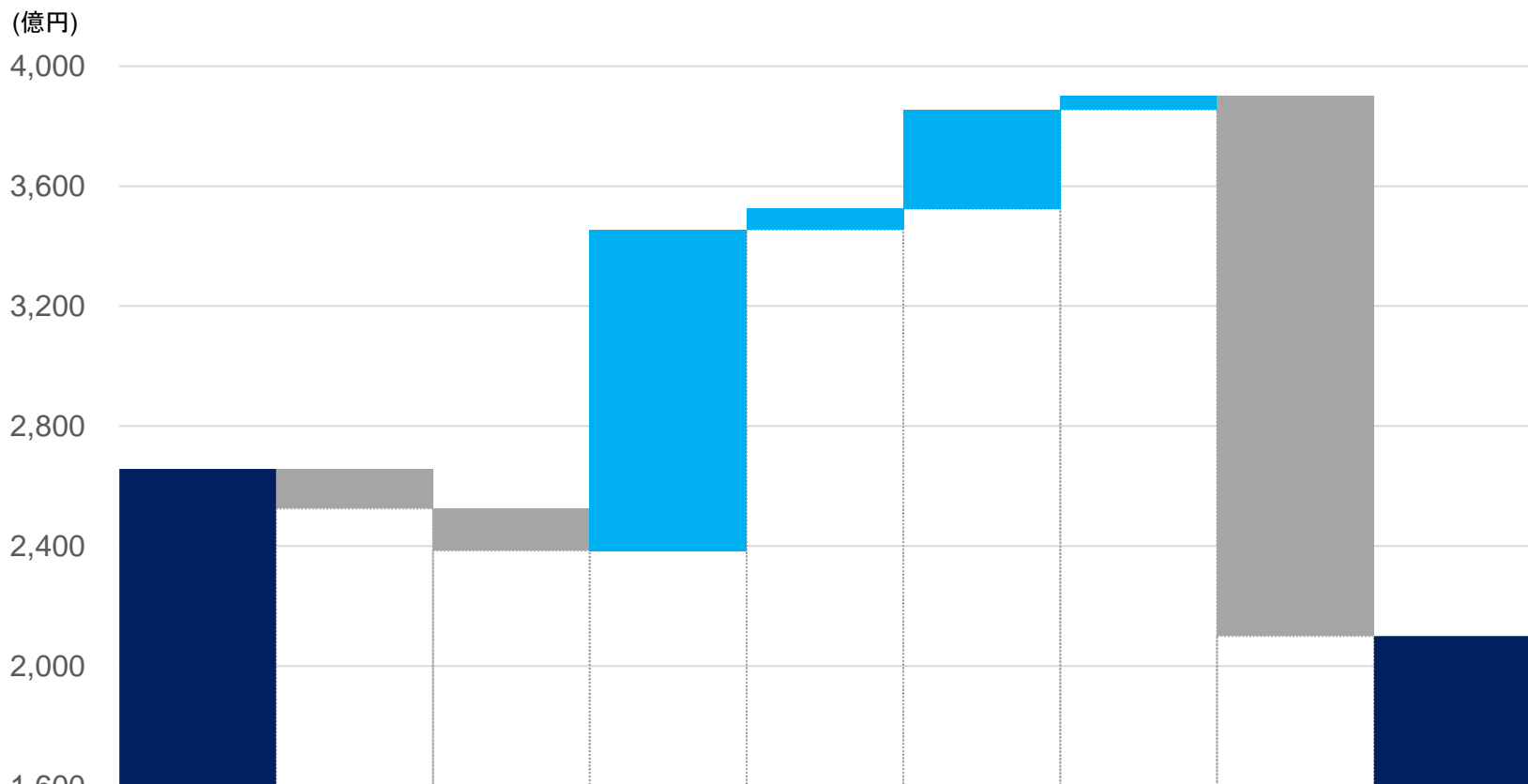
売上高 ▲505億円

営業利益 ▲130億円

■ 事業セグメント別通期業績計画

		2019年度 実績	2020年度			
			上期実績	下期計画	年間計画	前年度比
(億円)						
全社	売上高	25,503	12,292	11,958	24,250	95%
	営業利益 (利益率)	2,655 (10.4%)	1,316 (10.7%)	784 (6.6%)	2,100 (8.7%)	79%
空調	売上高	23,091	11,317	10,833	22,150	96%
	営業利益 (利益率)	2,362 (10.2%)	1,245 (11.0%)	730 (6.7%)	1,975 (8.9%)	84%
化学	売上高	1,799	746	854	1,600	89%
	営業利益 (利益率)	238 (13.2%)	59 (8.0%)	41 (4.8%)	100 (6.3%)	42%
その他	売上高	613	229	271	500	82%
	営業利益 (利益率)	55 (9.0%)	12 (5.3%)	13 (4.7%)	25 (5.0%)	45%

■ 営業利益増減分析 - 通期計画の対前年度比較



	2019年度実績	為替	固定費ほか	拡販	売価	コストダウン	原材料	新型コロナウイルス	2020年度計画
計	2,655	▲130	▲140	+1,070	+70	+330	+45	▲1,800	2,100
空調	2,362	▲127	▲140	+978	+70	+307	+45	▲1,520	1,975
化学	238	▲3	—	+85	—	+20	—	▲240	100
その他	55	—	—	+6	—	+3	—	▲40	25

上期の概況

住宅用の業界需要は、巣ごもり需要や特別定額給付金の効果に加え、8月以降は天候の追い風もあり、前年度を上回った。当社は、『うるさらX』の換気機能を訴求した販売を強化。在室時間の増加による省エネ性への関心、空気質ニーズの高まりを捉え、シェアを拡大。空気清浄機は、供給力を強化し、好調な需要を捉え、販売を大きく伸ばした。

業務用の業界需要は、学校空調の特需の反動に加え、経済活動の停滞により、前年度を下回った。当社は、需要の変化に対応した提案営業を強化。政府の補助金も追い風となり、全熱交換器など換気商材の販売が伸長し、シェアを拡大。アプライドは、R32機への置換を進め、収益性が改善。

下期の施策

住宅用・業務用ともに、空気質・換気への関心の高まりを捉える。

住宅用では、独自のストリーマ技術や換気機能を搭載した商品のラインアップを拡充し、シェアアップをめざす。

業務用では、飲食店・小売店向けに後付け可能な全熱交換器の新品を拡販。

空調機とのセット提案により、更新需要の獲得を図る。

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		上期実績	年間計画
住宅用	業界	102%	100%
	当社	105%	106%
業務用	業界	79%	84%
	当社	85%	90%
アプライド	業界	86%	83%
	当社	81%	88%
空気清浄機	業界	156%	148%
	当社	192%	177%

※アプライドは売上高ベース

上期の概況

政府の経済対策や金融緩和が消費を下支えし、景気は回復の兆しを見せた。当社は、オンラインツールを活用した販売活動に努めたが、4月にグッドマン工場の操業を一時停止した影響により、売上高は前年度を下回った。

- 住宅用ユニタリーは、新型コロナウイルス感染拡大の継続による製造人員不足の影響で供給が逼迫し、販売が減少。
- ダクトレスは、RA/SKYで、居住空間の改善ニーズや好天による需要の高まりを捉え、販売を拡大。VRVは、需要が減少するなか、販売店へのオンライン研修に注力したことに加え、小型物件で販売を拡大。第2四半期の販売は前年度を上回った。
- アプライドは、販売網の強化に注力。エアハンドリングユニットやサービスパーツを中心に、新型コロナウイルスの影響が顕在化する以前の受注を出荷へと繋げ、販売が伸長。

下期の施策

グッドマン工場の人員強化により供給力を増強するとともに、販売店の営業活動を支援。住宅用ユニタリーでは、換気商材を組み合わせた販売活動を強化。ダクトレスでは、住宅向けの旺盛な需要を捉え、省エネ性の高いRA(SEER19)の拡販をめざす。アプライドでは、データセンターなど堅調な市場向けや、空気質・換気ニーズを切り口とした販売を推進。

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		上期実績	年間計画	
			需要	当社
住宅用ユニタリー		90%	100%	94%
ダクトレス	RA/SKY	117%	107%	110%
	VRV	91%	87%	88%
アプライド		105%	98%	101%

※SKY・・・中小型パッケージエアコン

※VRV・・・業務用マルチエアコン

※アプライドは売上高(現地通貨)ベース

上期の概況

6月からの本格的な市場再開を受け、販売活動を強化。第2四半期は、前年度を上回る売上高を確保したが、4月・5月の新型コロナウイルスによる販売活動制限の影響で、累計の売上高は前年度を下回った。原材料市況の軟化効果の取り込み、固定費削減やコストダウンの推進により、高収益を維持した。

- ▶ 住宅用市場では、6月以降、住宅用マルチエアコンの販売が伸長。独自専売店『プロショップ』での販売にオンラインを組み合わせた新たなビジネスモデルを構築。オンラインイベントによる新規顧客の探索や、ライブ放送を活用したオンライン販売を推進。
- ▶ 業務用市場では、需要が回復傾向にある大型物件向けで、大手ディベロッパーとの協業を推進するとともに、商品力を強化。回復が遅れている店舗向けでは、換気・洗浄・除菌を訴求した販売活動に取り組み、需要の掘り起こしに注力。
- ▶ アプライド市場では、インフラ関連、データセンター、保守・メンテナンスなど成長分野に資源をシフトし、販売を推進。

下期の施策

市場の回復を捉え、アフターコロナの需要の変化に対応した換気商材の品揃えを強化するとともに、オンラインを活用した販売活動を加速。年間で前年度を上回る売上高をめざす。

〈市場別販売状況(現地通貨売上高ベース)〉

(前年度比)	上期実績	年間計画	
		需要	当社
住宅用※	94%	100%	103%
業務用	86%	98%	100%
アプライド	97%	101%	101%

※住宅用マルチエアコン含む

上期の概況

欧州は、ロックダウン解除後、住宅用を中心に需要が回復に向かい、売上高は前年度並みとなった。中近東では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う原油価格の下落や通貨安の影響を受けた。

- 住宅用は、最寄化生産による安定供給で需要回復を捉え、6月以降に販売を大きく拡大。
- 業務用は、全熱交換器など換気商材の販売を強化したが、ホテル・店舗・オフィスの需要減少の影響を受けた。
- 暖房事業は、ヒートポンプ式温水暖房機器への置換を推進するインセンティブなどにより、更新需要を獲得。
- アプライドは、最大市場の中東で経済停滞により工事が延期となり、販売が減少。

下期の施策

住宅用は、マルチエアコンや空気清浄機の需要の高まりを捉え、拡販を図る。

業務用は、感染再拡大を背景に市場が厳しさを増すなか、需要が堅調なIT関連や倉庫向けの販売を強化するとともに、換気機器の販売を拡大。

暖房事業は、ヒートポンプ式温水暖房機器の環境性能を訴求することで、好調な需要を捉え、シェアを拡大。

冷凍・冷蔵事業は、ザノッティ社およびAHT社と販売網・商品ラインアップを相互活用し、コールドチェーン全体での事業展開に取り組む。

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)		上期実績	年間計画	
			需要	当社
住宅用		105%	92%	105%
業務用	SKY	86%	74%	84%
	VRV	84%	84%	90%
暖房		103%	103%	114%
アプライド		90%	89%	97%

※SKY・・・中小型パッケージエアコン

※VRV・・・業務用マルチエアコン

※アプライドは売上高(現地通貨)ベース

上期の概況

居住空間の改善ニーズの高まりを捉え、オンラインツールを活用した販売活動に注力したが、インドをはじめとした各国での活動制限の影響が大きく、売上高は前年度を下回った。

- 住宅用は、各国で家電量販店が閉鎖されるなか、オンラインツールを活用し、独自の販売ルートでの販売を推進。オーストラリア・マレーシアでは前年度を上回った。インドでは、第1四半期は、販売活動制限の影響が大きく前年度を下回ったが、オンライン研修など販売店との関係強化の取組みを実施し、第2四半期は前年度並みに回復。
- 業務用は、建設現場での労働者不足や、新型コロナウイルス感染防止対応による工期遅れ、工事の延期の影響により、販売が減少。
- アプライドは、保守・メンテナンスなどサービス事業に注力。

下期の施策

販売網・サービス網の拡充を推進、シェアアップをめざす。住宅用では、オンライン販売の体制構築に取り組むとともに、空気質改善ニーズの高まりを捉えた新商品の投入により、販売を強化。業務用では、新型コロナウイルスの影響を受けにくい学校・病院向けに販売を強化。アプライドでは、データセンター向けの機器販売や、サービス提案の強化により拡販をめざす。

■売上高上位国の対前年同期比(現地通貨ベース)

オーストラリア:109% ベトナム:72% マレーシア:95%
タイ:84% インド:57% インドネシア:84%

〈製品別販売状況(台数ベース)〉

(前年度比)	上期実績	年間計画	
		需要	当社
住宅用	81%	83%	89%
業務用	SKY	77%	79%
	VRV	71%	84%
アプライド	78%	86%	110%

※SKY・・・中小型パッケージエアコン
 ※VRV・・・業務用マルチエアコン
 ※アプライドは売上高(現地通貨)ベース

上期の概況

半導体市場の回復遅れや自動車市場の需要減少、冷媒ガスの販売減に加え、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、売上高は前年度を下回った。

- フルオロカーボンガスは、空調需要の減少により、グローバルで販売が落ち込み、売上高は前年度を大きく下回った。
- 樹脂・ゴム
 - ーフッ素樹脂は、半導体・自動車関連の世界的な需要減少に加え、米国での建築・航空機関連の需要の落ち込みもあり、販売が減少。
 - ーフッ素ゴムは、日本・欧米・アジアで、自動車市場の需要減少の影響を大きく受けた。
- 化成品は、表面防汚コーティング剤で、タブレット向けの販売に注力し、中国・日本で販売を拡大。撥水撥油剤は、医療用防護服など医療関連用途で販売が伸長。

下期の施策

化成品で、好調な撥水撥油剤の拡販に注力。樹脂・ゴムで、5Gの導入によるIT化の加速を背景に需要の回復が見込まれる半導体市場での販売を促進。トータルコストダウンにより、利益確保に努める。

次世代自動車向けリチウムイオン電池材料など、用途開発を推進。

〈製品別販売状況(売上高ベース)〉

(前年度比)	上期実績	年間計画	
		需要	当社
全フッ素化学品	83%	83%	89%
ガス	55%	63%	59%
樹脂・ゴム	81%	82%	86%
化成品ほか	98%	85%	105%

上期の概況

事業体質の抜本改革に向け、安定した供給体制の構築、トータルコストダウン、高付加価値商品の営業力強化に取り組んだ。

- エアフィルタは、換気ニーズの高まりを捉え、高性能フィルタや陰圧機など感染症対策商材の販売を推進。米国・アジアで、病院やクリーンルーム、住宅向けに拡販。
- P&I※では、アフターサービス事業へリソースをシフトし、事業体質の改善に努めたが、ガスタービン市場の需要減少の影響を大きく受けた。

下期の施策

エアフィルタは、米国で安定した供給体制を確立し、感染症対策商材の需要拡大を捉え、拡販をめざす。日本・欧州・中国でも、医療・介護市場向けに販売を強化。

P&Iでは、安定した事業基盤の構築に向け、アフターサービス事業の強化や固定費削減に取り組む。

※P&I・・・ガスタービン、大規模プラント等の業務用集塵システム

上期の概況

油機事業は、産業機械向け・建設機械向けともに、設備投資の鈍化などにより需要が減少し、減収。

特機事業は、採血せずに血中の酸素飽和度を測定できるパルスオキシメータや酸素濃縮装置の販売が伸長したが、防衛省向けの販売が減少し、減収。

電子システム事業は、製造業の投資鈍化により、ビジュアルR&Dの販売が減少し、減収。

下期の施策

油機事業は、厳しい需要環境のなか、オンラインでの販売活動を強化。

特機事業は、新型コロナウイルスを機に高まるパルスオキシメータの特需を取り込み、在宅医療分野での拡販を図る。

電子システム事業は、IT導入補助金を活用し、設備CADの提案営業を強化。

年間160円(中間80円、期末80円)を予定。

【配当方針について】

安定的かつ継続的に配当を実施していくことを基本に、連結純資産配当率(DOE)3.0%を維持するよう努めるとともに、連結配当性向についてもさらに高い水準をめざし、株主還元の一層の充実を図る。

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (予想)
1株当たり 配当金	中間	60円	65円	70円	80円	80円
	年間	130円	140円	160円	160円	160円
1株当たり 当期純利益	上期	330.1円	347.1円	385.8円	405.1円	289.2円
	年間	526.8円	646.5円	646.4円	583.6円	478.5円
(参考) DOEの推移		3.6%	3.4%	3.5%	3.3%	3.2%

■ 為替レート

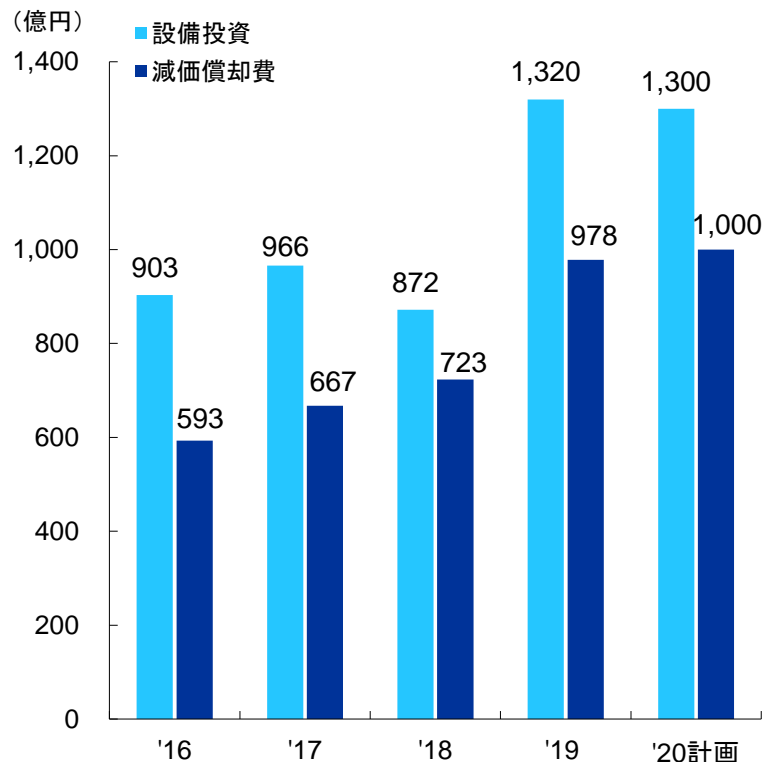
	2019年度実績			2020年度		
	上期	下期	年間	上期実績	下期計画	年間計画
USドル	109円	108円	109円	107円	108円	107円
ユーロ	121円	121円	121円	121円	120円	121円
中国元	15.7円	15.5円	15.6円	15.3円	15.2円	15.2円
タイバーツ	3.5円	3.5円	3.5円	3.4円	3.4円	3.4円
豪ドル	75円	73円	74円	73円	73円	73円

■ 為替感応度（1円の変動による営業利益への影響）

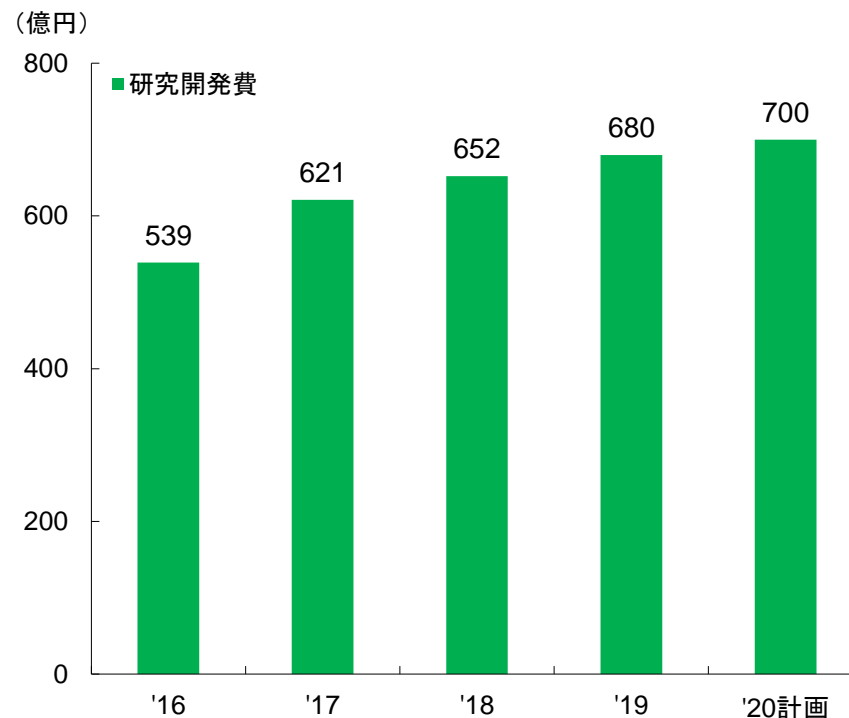
	2020年度計画
USドル	13億円※
ユーロ	4億円

※タイバーツ、中国元、豪ドル等はUSドルと連動して変化することを前提としている。

設備投資・減価償却費(年間)



研究開発費(年間)



<参考>上期実績の推移

(億円)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
設備投資	397	404	398	540	633
減価償却費	283	325	357	461	503
研究開発費	261	303	317	336	330



ダイキン工業株式会社

予測に関する注意事項

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその確実性・完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願い致します。本資料の見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断により生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。